

令和2年度 関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・分析業務
業務実施報告書

【貴団体概要】

団体名	株式会社シーズ総合政策研究所
事業名	しまね発 つながりダイバーシティ・プロジェクト ー島根発 関係人口と地域のひとが織りなす多様性創発事業ー

1 事業概要・主な成果

1.1 事業概要

(1) 事業実施地域とビジョン

本事業においては、担い手人材の確保へのニーズが高く、関係人口の参画に関する「かかわりしろ」のある地域団体を対象とした。

その中で、モデル性を高めるため、地域側では浜田市内をエリアに「今回初めて関係人口創出に着手するスタートアップ型」と、江津市で活動する団体及び地区を対象に「移住者の地域活動参画を達成、関係人口による活動の高度化を目指すブラッシュアップ型」の支援を実施した。

また、大都市側の関係人口として、スタートアップ型に対しては、地域課題解決に資する専門知識やスキルを有する人材と、ブラッシュアップ型に対しては、当該地域への認識と貢献意識の高い人材とのマッチングを図った。

(2) 関係人口層へのアプローチ

関係人口層への最初のアプローチとして、スタートアップ型、ブラッシュアップ型、またそれ以外にも広く「かかわりしろ」を提示するため、YouTube チャンネルによる動画を制作し、「かかわり「シロ」チャンネル」として配信した。

また、大都市部の関係人口層に向けて、「かかわりしろって何だろう？」をテーマにオンラインイベントを開催し、約 50 人が参加した。

(3) スタートアップ型の事業概要(浜田市をフィールドとした取り組み)

地域側のニーズを把握するため、浜田市内の各公民館へアンケート調査を実施し、現状とニーズを把握した。これは大都市交流イベントで報告し、また、フィールドトライアルの実施公民館を選定した。

浜田市内の今福公民館、国府公民館、美川公民館の 3 館をフィールドとして、事前ワークショップを行った上で、フィールドトライアルを実施した。

(4) ブラッシュアップ型の事業概要(江津市をフィールドとした取り組み)

ブラッシュアップ型では、江津市における個別プロジェクトを対象とした。事前のヒアリングにより、かかわりしろを明らかにしてトライアルに臨んだ。

「Go>つくる大学」プロジェクトについては、取り組みを知り、講座づくりを通して関わりを考えるトライアルを 3 回にわたってオンラインにて実施した。

もう一つの「有福温泉エリアリノベーション」プロジェクトについては、現地を案内するフィールドトライアルをオンラインにて行い、有福温泉の現状と課題を知り、関わりを考えるワークを実施した。

いずれも事前にオンライン説明会を開催し、インプットとワークを行った上でトライアルに臨んだ。

1.2 主な成果

(1) 関係人口層へのアプローチ

- YouTube 動画チャンネル「かかわりシロチャンネル」では、指出氏と三浦氏のトークによって、かかわり方の提示を行い、広く面白さを提示することができた。

(2) スタートアップ型における成果

- 当初は現地を訪問するフィールドトライアルとしていたが、新型コロナウイルス感染拡大のためオンラインに変更したが、これにより、想定より多くの 20 人の関係人口を得ることができた。
- オンライン形式であったが、現地からの案内や意見交換を通して、地域のリアルな情報を受け取っていただき、今後のつながりへの意欲を持っていただくことができた。
- オンラインによる関わり方、オフラインへのきかけと、参加者自身が、関わり方の多様性を見出す結果となった。
- 地元の人が案内役を担ったことで、要所をとらえ、実感をもったレポートとなり、参加者の地域への理解を深めることに寄与した。

(3)ブラッシュアップ型における成果

- オンラインに変更したことにより、想定人数より多くの関係人口を得ることができた。
- 「Go>つくる大学」プロジェクトでも「有福温泉エリアリノベーション」プロジェクトにおいても、ほとんどの参加者が今後の関わりを希望する結果となった。
- 関係人口を「しまコトアカデミーOBOG」を対象とし、受入側も経験と実績をもった上でトライアルを行ったことにより、成果への到達が早く、より具体的なアウトプットとして成果が表れた。

2 モデル事業実施地域の概要と課題

2.1 事業実施地域の概要・課題

(1) 島根県浜田市

①地域の概要

浜田市は平成 17 年、5 市町村が合併して誕生した。県西部の日本海を望む位置にあり、東は江津市、邑南町、西は益田市、南は広島県に隣接している。市内には高速道路、港湾などの都市基盤や大学、美術館等の教育文化施設が充実しており、島根県西部の中核都市を形成している。一方、人口は 52,918 人、高齢化率 36.83 % (令和 2 年) となっており、特に中山間地域においては人口減少に歯止めがかからず、高齢化率は 50% を超える地区も少なくなく、将来にわたっての地域力の減退が懸念されている。

②地域の課題

浜田市では、いわゆる平成の大合併にあたり、旧市町村を 5 つの自治区として制度化し、地域特性に応じたまちづくりを進めてきたが、人口減少や年齢別の人口構成における自治区間格差が生じている状況である。また、地域の担い手不足による地域コミュニティの機能低下が懸念されており、イベント活動、環境整備活動、文化保存活動などの分野をはじめとして、これまでのような地域のみ、行政のみの取り組みだけでは解決できない課題が増えてきている。

こうした状況を踏まえ、市では、より市民生活に根差したコミュニティ単位で地域の個性を活かして課題解決にあたる地域力の強化をめざし、公民館や地域の住民活動団体を拠点とする人材育成の重要性がいつそう増している。

(2) 島根県江津市

①地域の概要

江津市は平成 17 年、2 市町が合併して誕生した。県西部の日本海を望む位置にあり、東は大田市、西は浜田市、南は邑南町に隣接している。市域には中国地方最大の大河、江の川が貫流し、中心市街地はその下流域に形成されている。石州瓦の産地であることから、市内各所に美しい赤瓦の家並みの風景をみることができます。人口は 23,231 人 (令和 2 年) となっている。

②課題

(ア) NPO てごねっと石見

江津市は、人口減少に負けない活力あるまちづくりをめざし、まちづくりスローガン「GO▶GOTSU! 山陰の創造力特区へ。」のもと、都市部からの起業家誘致(ビジネスプランコンテスト)やふるさとキャリア教育、市民大学(GO▶つくる大学)など、『人づくり』『起業家誘致』に焦点をあてた取り組みを展開。移住*起業モデルを創出してきた。しかし、地域の社会経済の担い手不足(15~39 歳転出者が全転出者数の 6 割を占め、2040 年までに約 3,000 人の生産年齢人口が減少)が大きな課題であり、関係人口の「拡大と協働」の仕組みづくりが急務となっている。このため、H28 年から市民大学「GO▶つくる大学」を開設。市民の意識改革を進めています。「GO▶つくる大学」の受講者は、年間約 180 人を確保していますが、教授、授業内容、受講生の固定化が懸念されており、また、関係人口増加や交流人口拡大といった目的の達成には至っていない。その要因として大きく下記 2 点をあげることがあげられる。

- 要因1: 地域の課題解決ニーズの把握が不十分(授業テーマに直結)
- 要因2: 事務局(NPO てごねっと石見)の担い手人材確保育成が急務

(イ)有福温泉

1350年の歴史ある同温泉は全盛期には旅館20軒以上を連ねる山陰有数の温泉地であったが、観光ニーズの変化への対応が遅れ、H22年の旅館街火災、H25年の水害、H28年の広島原爆療養所閉鎖、H29年の主要旅館2軒とカフェ等運営企業倒産により厳しい状況を迎え、近年の入込客数はピーク時の半分まで減少している。このことは地域経済に大きな影を落としており、温泉地再生は喫緊の課題となっている。

2.2 関係人口創出・拡大に関わる取組みのビジョン・テーマ設定

(1) 取組みにおけるビジョン

関係人口における取組段階と人材ニーズを組み合わせた支援の実施

ビジョンの具体化にあたって、以下の基本方針を設定した。

i. 先駆的なモデル事業の実施

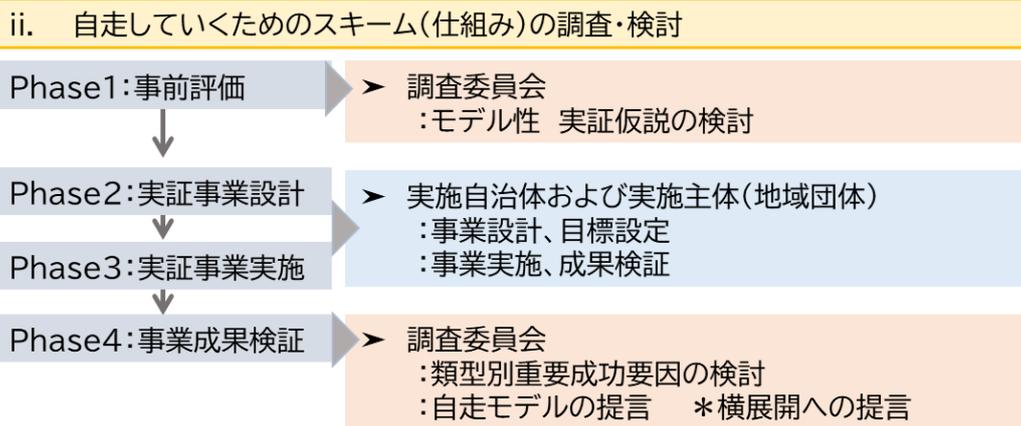
地域側	対象地域	① 地域人材ニーズの高い地域を選定 ➤ 島根県西部地域における担い手人材の多様性創出支援
	モデル性	② 支援段階パターンを想定した実施モデルの設定 ➤ a. 関係人口創出をめざすスタートアップ型 ➤ b. 関係人口と地域の担い手の協働によるブラッシュアップ型
大都市側	既存集団	③ 県単位で形成してきた大都市関係人口コミュニティとの連携 ➤ しまこトアカデミーOBOGの関わりニーズとのマッチング
	新規集団	④ 首都圏大学と小地域単位でのコミュニティ拠点との連携 ➤ 法政大学との連携による地域分析スキルを有する関係人口との連携

◎地域側

- ・ 担い手人材の確保へのニーズが高く、関係人口の参画に関する関わりしろのある地域団体を対象とした。
- ・ 「今回初めて関係人口創出に着手するスタートアップ型」と「移住者の地域活動参画を達成、関係人口創出による活動の高度化をめざすブラッシュアップ型」の支援を実施し、本事業の成果を横展開するモデル性を高めることを目指した。

◎大都市側

- ・ 2012年開始の関係人口講座「しまこトアカデミー」(島根県:構成団体2社が企画運営受託)の受講OBOGとの連携を図ることで、島根県内への貢献意識の高い人材とマッチングし、地域団体の活動体制充実を図った。
- ・ 法政大学(構成団体)大学院生等、地域課題解決に資する専門知識やスキルを有する人材と連携。地域づくり拠点との協働モデルとして実施した。



◎事業実施団体と調査委員会による調査・検討体制

- ・ 調査委員会を設立し、客観性と汎用性を重視した検証提言を諮問した。
- ・ 関係人口創出と地域参画による地域課題解決の取り組みを主体的に進める地域団体への支援プロセスと実施結果を個別事例として検証した。
- ・ 事業実施前には、横展開を見据えた検証項目の検討を行った。また、実施後には、類型別の重要成功要因や自走モデルの提言を行った。

(2) 取り組みのテーマ

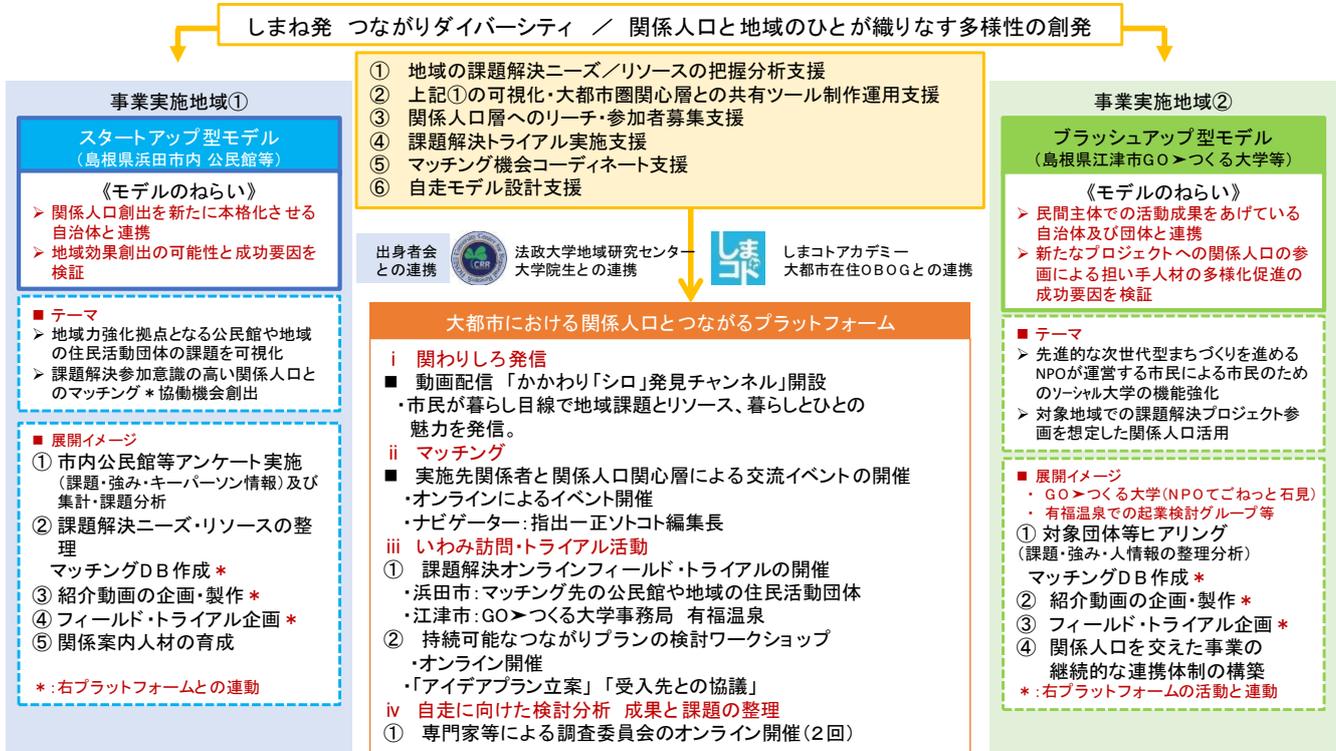
地域ニーズや関係人口施策に関する段階に応じた支援を重視するビジョンを踏まえ、以下のテーマに基づく支援内容を構成した。

しまね発 つながりダイバーシティ
 —関係人口と地域のひとが織りなす多様性の創発—

3 モデル事業の取組内容

3.1 取組みの全体像・スキーム

(1) 取組みの全体像



下記の6つの支援ポイントにより、都市部在住関係人口層と支援先地域・団体双方にとって、有意義で、持続的で自立可能な関係人口連携モデルの仕組みづくりをめざした。

- ① 地域の課題解決ニーズ/リソースの把握分析支援
- ② 上記①の可視化・大都市圏関心層との共有ツール制作運用支援
- ③ 関係人口層へのリーチ・参加者募集支援
- ④ 課題解決トライアル実施支援
- ⑤ マッチング機会コーディネート支援
- ⑥ 自走モデル設計支援

(2) 具体的な内容

①《島根県浜田市》～スタートアップ型モデル～での取り組み概要

公民館等との協働による課題発見・解決を図る関係人口との連携

地域づくり拠点として期待される公民館において、関係人口との協働機会を通して「地域づくり機能強化」と「関係案内人の育成」を図った。

* 主な展開内容

- 関わりしろの可視化 ➢ 公民館や地域の住民活動団体の地域課題とリソース(地域資源+人)抽出
・公民館等アンケートによる課題等の収集・整理
- 関わりしろの共有 ➢ マッチングデータベース作成
➢ 地域紹介動画の企画製作(関わりしろ発見チャンネルでの配信)
- トライアル企画実施 ➢ 法政大学等大都市関心層との協働による課題発見トライアル企画策定
・マッチング対象公民館において実施(オンラインにて実施)
- 検証・連携継続検討 ➢ 地域づくり機能充実方策の検討とモデルの展開

②《島根県江津市》～ブラッシュアップ型モデル～での取り組み概要

地域団体運営＊個別プロジェクトへの関係人口の参画機会創出

市民大学「GO>つくる大学」事務局(NPO てごねっと石見)での運営学習や事業検討参画により、運営人材の充実を図った。

有福温泉でのエリアマネジメント・プロジェクトを学習し、地元資源活用によるアイデアの立案、まちづくりへの継続参画を促した。

* 主な展開内容

- 関わりしろの可視化 > GO つくる大学、有福温泉プロジェクト関係者ヒアリングによる課題等の整理
- 関わりしろの共有 > マッチングデータベース作成
> 地域紹介動画の企画製作(関わりしろ発見チャンネルでの配信)
- トライアル企画実施 > しまこ卒業生等貢献意識の高い層を対象にトライアル企画を実施
(3回にわたって、オンライントライアル・ワークショップを実施)
- 検証・継続連携検討 > 関係人口を交えた事業の継続的な展開の検討

③都市部在住関係人口層と2市取り組みをつなげる仕組みづくり

双方がお互いを理解し、つながるプラットフォームづくり

地域の関わりしろの共有とニーズシーズマッチングを展開するプラットフォームを構築し、これを活用した2市と関係人口層のマッチングに向けた取り組みを展開した。

* 主な展開内容

- 関わりしろの発信 > 動画配信「関わりしろ発見チャンネル」開設
・市民目線で地域課題、暮らしやひとの魅力等を動画投稿・配信
- マッチング機会提供 > 地域団体側と関係人口層によるオンラインイベントの開催
・オンラインでのトークイベントとして開催
・ナビゲーター: 指出一正(ソトコト編集長)
・地元メンター: 三浦大紀氏・地元ゲスト
- 現地課題解決トライアル(オンラインにて実施)
> 課題解決オンラインフィールドトライアルの開催
・浜田市: マッチング先の市内公民館
・江津市: GO>つくる大学事務局 有福温泉街
- 持続可能なつながり方の検討
> ワークショップ開催(オンライン開催)
・第1回「アイデアプラン立案」
・第2回「受入先への提案＊実現性向上に向けたWEBミーティング」
- 自走モデルの検討 > 関係人口専門家及び実施自治体等による調査委員会の開催(2回)

④調査委員会による検証・提言

調査委員会の役割と構成…自走に向けた検討分析及び事業成果と課題の整理

事業実施にかかる検証性と汎用性(他地域への横展開)を確保する視点から、事前評価(事業目的・手段の整合性確認、検証項目設定)と事後評価(事業成果と課題の検証)の2回開催。2回目には、事後検証に加えて、他地域での展開可能性についての検討・提言を行いました。調査委員会は、オンラインにより開催した。

● 調査委員

委員長: 若林宗男氏(元テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」キャスター・事業構想大学院大学客員教授)

委員: 正能茉優氏(ハピキラ FACTORY 代表取締役 慶応大学 SFC 特任助教)

委員: 田中輝美氏(ローカル・ジャーナリスト)

委員: 指出一正氏(ソトコト編集長)

委員: 松本敦則氏(法政大学地域研究センター長)
 ゲスト: 三浦大紀氏(Go>つくる大学 校長: 第2回のみ参加)
 オブザーバー *浜田市定住関係人口推進課 *江津市地域振興課

3.2 期待される効果・KPI

(1) 浜田市事業において期待される効果

- 実施地域に対して、関係人口の参画により、外からの視点で地域課題や解決方策、地域の魅力や可能性の発見・提言が得られること

指標	参加者による提案プランの件数
KPI	参加者と同数
計測方法	提出プラン件数により把握

- 関係人口との交流、協働機会を通じて、実施地域のコミュニティ(住民)が、都市側の視点からみた地域のすがたを発見し、地元住民が暮らしや仕事への愛着や誇りを再認識すること

指標	協働活動で活動が活性化したと考える関係者の満足度
KPI	関係者の80%以上
計測方法	関係団体アンケートにより把握

- 地域の課題解決にかかる活動についての「ジブンゴト意識」が高まり、関係人口との協働への意欲が高まること

指標	関係人口との協働活動を継続したいと考える関係者の割合
KPI	関係者アンケートにより把握
計測方法	次年度に継続して展開する取り組みの件数: 2件以上

(2) 江津市事業において期待される効果

① Go>つくる大学

- Go>つくる大学の運営に多様な人材が関わり、つくる大学の魅力化や多様化が図られること

指標	事業により大学の魅力が向上したと考える参加者・関係者の割合
KPI	参加者、関係者の80%以上
計測方法	関係団体アンケートにより把握

- オフライン・オンラインなど多様な形態で Go>つくる大学事務局に参画する人材が確保され、つくる大学という地域と人をつなぐ学びのプラットフォームの持続可能性が高まること

指標	事業におけるマッチング件数(関係人口数)
KPI	5名以上
計測方法	実施件数

指標	求める運営人材が充足したと考える関係者の割合
KPI	関係者の80%以上
計測方法	関係者アンケートにより把握

- Go>つくる大学の受講者増加が図られ、全国からの参加も確保されること

指標	都市部からの講座参加者数
KPI	オンライン講座の視聴者数
計測方法	視聴者数の実測

- Go>つくる大学の認知度が高まること

指標	都市部の出の交流トークイベントへの参加者数
KPI	来場者数(オンラインイベントの視聴参加数)
計測方法	来場者の実測

②有福温泉再生

- 有福温泉の再生に関わる人材の人的ネットワークにより、空き家や空き旅館を活用した外部からのビジネス参入や事業参画が促進されること

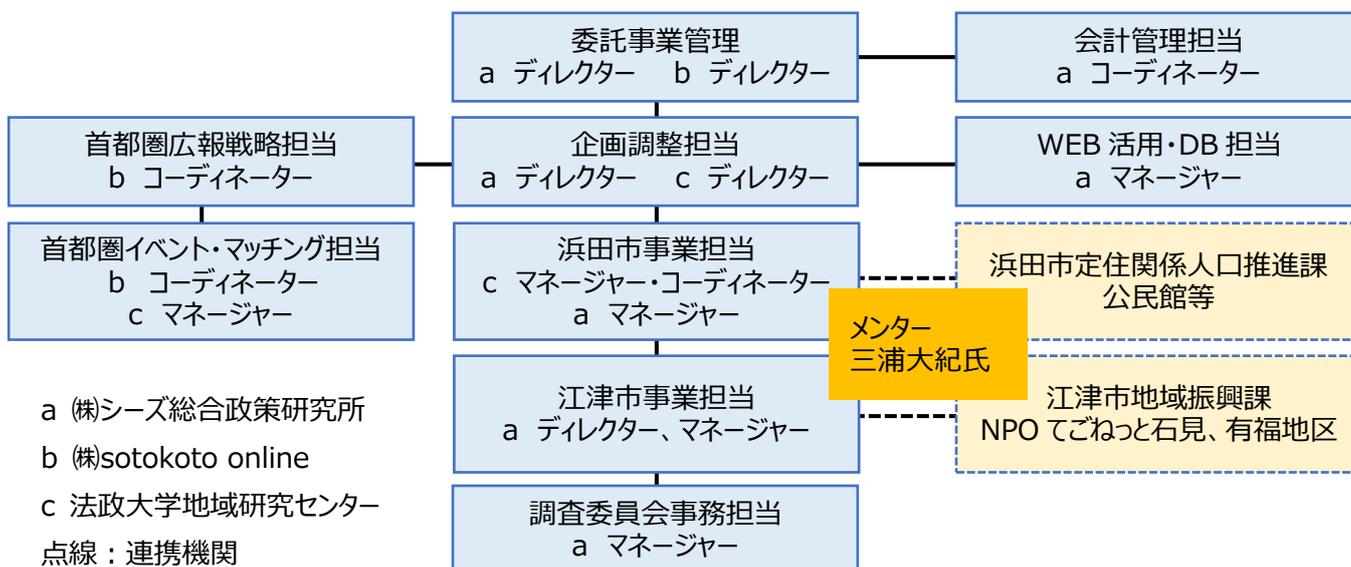
指標	事業におけるマッチング件数(関係人口数)
KPI	5名以上
計測方法	実施件数

- まちづくり会社(エリアマネジメント・アセットマネジメント等)を担う人材が確保されること

指標	当初、「事業後、まちづくり会社への参加を希望する参加者の割合」としていたが、事業実施において、まちづくり会社へ限定せず、地域の多様な人と関わるのが有効であると判断し、「事業後、有福温泉におけるまちづくりへ参加を希望する参加者の割合」とした。
KPI	参加者の80%以上
計測方法	参加者アンケートにより把握

4 事業実施に係る運営体制

4.1 事業実施体制



4.2 事業実施団体及び関係機関の役割

各主体(提案団体及び取組に関わる関係者(産学官民等))の役割		
No.	名称	役割
1	(株)シーズ総合政策研究所	委託事業の統括管理および会計管理(担当者は同社経理業務専任社員)、提案者、連携先機関との調整。島根県内における事業及び調査分析、メンター調整。調査委員会事務局。WEB活用コンテンツ、DB制作。
2	(株)sotokoto online	上記1とともに委託事業管理及び事業企画監修。首都圏関係人口層に向けた広報戦略、募集戦略。首都圏関係人口層とのイベント企画開催、マッチング実施。
3	法政大学地域研究センター	企画調整の浜田市事業と同市にかかる首都圏事業を担当。特に同大学の大学生・大学院生などへの告知、募集と地域課題分析に取り組む。
4	事業実施主体 (公民館等) (NPO てごねっと石見)	それぞれの活動にかかる課題と特性の可視化。これを踏まえた参画人材へのミッションと求める人材像の明確化。関係人口人材のトライアル受け入れによる体験・調査等機会提供、自走に向けた意見交換への参加。
5	事業実施自治体 (島根県浜田市・江津市)	事業主体における取組に関する調整協力。調査委員会への参画。そのほか事業設計に関する助言等。

5 事業実施内容

5.1 実施スケジュール

実施事項	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
1 (1) 地域との関わりを持つ機会を創出 ①実施計画作成・関係者協議	実施計画作成・関係者協議																								
2 (1) ②浜田市：公民館等課題把握アンケート実施				調査票作成・調査実施			集計・分析																		
3 (1) ③江津市：実施団体ヒアリング実施				実施団体ヒアリング																					
4 (1) ④マッチングデータベース設計・構築・登録				データベース設計・構築・登録																					
5 (1) ⑤動画チャンネルの企画・運用				動画チャンネルの企画・運用																					
6 (1) ⑥オンラインイベント				イベント企画・調整			イベント開催準備			★ 11月初旬 オンラインイベント															
7 (2) 関わりを継続的なものとする仕組みの検討 ①現地課題解決トライアル企画・関係				トライアル企画・関係者協議																					
8 (2) ②フィールドトライアル実施（2市）				12月下旬～1月下旬 トライアル実施						トライアル準備			★			★			★						
9 (2) ③オンラインワークショップ開催（2市）										企画・準備			★			企画・準備			★			★			12月中旬～2月ワークショップ
10 (3) 自立化・自走化の検討 ①調査委員会開催（オンライン・2回）							準備・調整			★			10月中旬 第1回開催						準備・調整			2月中旬 第2回開催			★
11 (4) 成果検証等 ①参加者及び事業主体関係者アンケート																			アンケート実施・とりまとめ						
12 (4) ②メンターからの意見聴取																						意見聴取・とりまとめ			
13 (5) 他地域への横展開の可能性の検討 ①調査委員会提言を踏まえたレポート作成																						レポート作成			
14 (6) 報告書とりまとめ ①報告書とりまとめ										報告書作成						報告書作成						報告書の作成・とりまとめ			

- ・ 事業着手時に、共同提案者及び関係者との調整を行い、ほぼ1カ月遅れでスタートした。
- ・ その後、新型コロナウイルス感染拡大により、当初予定していたフィールドトライアルをオンラインに切り替えて実施した。そのため、社会状況に対応した事業実施となり、その分、スケジュールに遅れが生じたが、予定していた事業については、期間内に実施することができた。

5.2 事業の広報・アプローチ

	スタートアップ型モデル事業 (浜田市)	ブラッシュアップ型モデル事業 (江津市)
求める関係人口	公民館を単位とする地域コミュニティにおいて、地域分析スキルを有する関係人口	すでに関係人口や当該地域への理解を有する「しまこトアカデミー」OBOG
アプローチ方法	法政大学地域研究センターが窓口となり、当プロジェクトに関心を有する同大学の社会人学生や卒業生へ直接アプローチ。 具体的には、オンラインイベントへの参加やフィールドトライアルへの参加を募集。	2012年にスタートした「しまこトアカデミー」では、250人を超えるOBOGによるコミュニティが形成されている。本プロジェクトでは、SNSにより参加を呼びかけた。 その上で、トライアル参加者募集にあたっては説明会を開催し、より理解を深めた上での参加とした。
	また、都市交流イベントにおいては、より広く関心層へ訴求することを目的に、「ソトコトオンライン」及び同フェイスブックへの記事掲載を行い、新たな関心層の掘り起こしを図った。	
想定と成果	当初、フィールドトライアルとして現地訪問を想定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により、オンラインによるフィールドトライアルとした。 そのため、当初の予定では、数名程度の参加を想定していたが、オンライン開催としたことにより、20名が参加した。	江津市における2つのプロジェクト、「Go>つくる大学」と「有福温泉」とで、各5名程度の参加を想定していた。 それぞれのプロジェクトで、「Go>つくる大学」へ9名、「有福温泉」へ6名の参加者があった。 説明会を開催したところ、両方のプロジェクトへの関心を持つ参加者が多く、2つのプロジェクトの連動性も見出すことができた。
効果的だった広報・アプローチ方法	求める関係人口層を明確にした上で、それに応じたアプローチを行った。 スタートアップ型では、トライアル前に情報提供とマインドセットのワークショップを開催し、参加者と受入側が情報を共有した上でトライアルに臨んだことにより、成果を高めることに寄与したと考える。	求める関係人口層を明確にした上で、それに応じたアプローチを行った。 ブラッシュアップ型では説明会を開催し、より理解を深めた上でトライアルを実施したことにより、受入側、関係人口側、双方の成果を高めることに寄与したと考える。

5.3 活動内容① 動画チャンネルの企画・運用

2020年11月から、浜田市、江津市で活動する個人やグループの「かかわりしろ」を発信するYouTube動画を制作・運用した。

地域の魅力を、「ごうちゃん」こと雑誌「ソトコト」編集長・指出一正氏と、「はまちゃん」にはGo>つくる大学校長・三浦大紀氏とが繰り広げるトークにより、その魅力を、ゆるく楽しく深掘りする番組とした。

公開。都市部の関心層に向けて「かかわってみたい」と思ってもらえる情報発信として取り組んだ。

浜田市	江津市
① まるばらまちラボラトリー:岡山令子さん ② 浜田市観光ボランティアガイドの会:小川直城さん ③ つながるマルシェ実行委員会:斎藤隼一さん ④ 今福線ガイドの会:田邨一男さん、岩崎敏さん ⑤ hamairo:浅見治輝さん	① GO つくる大学:竹内 希さん ② 江津市 地域振興課 課長:中川 哉さん ③ 有福温泉町連合自治会 会長:盆子原 温さん ④ 有福温泉 よしだや 若女将:佐々木 文さん ⑤ 山陰ギフト 代表:小塚 光倫さん ⑥ 江津高校神楽愛好会の皆さん ⑦ NPO てごねっと石見:齋ヶ原祐司さん
<その他> ○ 江津・有福温泉シリーズエンディングトーク ○ 温泉談義 ○ エンディングトーク	



5.4 活動内容② オンライン交流イベント

名称	「かかわりしろ」ってなんだろう？ ～浜田・江津のプレイヤーに教わる、ローカルとのつながり方～
日時	2020年11月2日(月)19:00～21:00
会場	オンライン
出演	岡本誉至子氏、江上尚氏、指出一正氏、三浦大紀氏
参加者	約50名
事務局	(株)sotokoto online(2名)／法政大学(1名)／(株)シーズ総合政策研究所(3名)
概要	都市部の関係人口層及び潜在層へ向けて、トライアルを実施する浜田市や江津市をフィールドに、「かかわりしろ」を紹介し、関心を高めることを目的に、オンラインイベントを開催した。

【プログラム】

開始時間	プログラム	メイン
19:00	オープニング しまね発つながりダイバーシティの概要紹介	事務局
19:10	浜田市アンケート調査報告	松本敦則氏(法政大学教授)
19:25	トークセッション「ごうちゃん・はまちゃんのフィールド案内 ～場づくりから生まれる、地域のかかわりしろ～」	<ゲスト> 岡本誉至子氏 (The Garden Party 合同会社 代表) 江上 尚 氏 (株式会社ゴウツゲストハウーズ 代表取締役 CEO) <ナビゲーター> 指出一正氏(雑誌「ソトコト」編集長) 三浦大紀氏(Go>つくる大学校長)
20:25	かかわり「シロ」ちゃんねる 公開収録	事務局
20:55	現地トライアルの告知	事務局
21:00	終了	

5.5 活動内容③ 浜田市オンラインフィールドトライアル事前ワークショップ

■浜田市フィールドトライアル及びオンラインワークショップの開催

名称	浜田市オンラインフィールドトライアル説明会
日時	2020年12月21日(月)19:00～21:50
会場	オンライン
参加者	法政大学大学院生・OBOG(12名)、法政大学教授(1名)
協力	浜田市役所定住関係人口推進課(3名)
事務局	(株)シーズ総合政策研究所(3名)
概要	フィールドトライアルへ向けた事前学習として、浜田市内の今福地区、国府地区、美川地区の3つの公民館を中心に、それぞれの地区の特徴や課題を学習した。そのうえで、トライアル当日へ向けて、それぞれが課題や視点をディスカッションを行った。

【プログラム】

開始時間	プログラム	メイン
19:00	オリエンテーション	松本敦則氏(法政大学教授) 事務局
19:30	浜田市の概要レクチャー①	浜田市
20:10	休憩	
20:20	浜田市の概要レクチャー②	浜田市

20:50	休憩	
21:00	オンライントライアルに向けたディスカッション	参加者、浜田市、事務局
21:50	終了	

5.6 活動内容④ 浜田市オンラインフィールドトライアル

名称	浜田市オンラインフィールドトライアル	
日時	2021年1月10日(日)9:30~18:30	
会場	オンライン	
参加者	法政大学大学院生・OBOG(20名)、法政大学教授(1名)	
協力	浜田市定住関係人口推進課(3名)、今福公民館・今福線を活かす連絡協議会・今福線ガイドの会の皆さん(4名)、国府公民館・hamairoの皆さん(3名)、美川公民館の皆さん(4名)、石見福祉会(ゲスト:1名)、浜田市議会議員(ゲスト:1名)	
事務局	(株)シーズ総合政策研究所(3名)	
概要	浜田市内の3つの地区をオンラインで訪問し、公民館を拠点とした活動や地域を知り、地域の方々との交流や意見交換を通して、地域への関わりや課題解決へ向けた提案を行った。	

【プログラム】

開始時間	プログラム	メイン
9:30	オリエンテーション	参加者、事務局
10:00	現地フィールド案内	現地ゲストの皆さん
11:00	オンラインフィールドワーク(今福地区)	今福地区のみなさん
12:00	休憩	
13:00	オンラインフィールドワーク(国府地区)	国府地区の皆さん
14:00	休憩	
15:00	オンラインフィールドワーク(美川地区)	美川地区の皆さん
16:00	グループワーク	参加者
17:00	休憩	
17:15	オンライン交流会	参加者
18:30	終了	

5.7 活動内容⑤ 有福温泉・Go>つくる大学オンラインフィールドトライアル説明会

名称	有福温泉・Go>つくる大学オンラインフィールドトライアル説明会	
日時	2020年12月14日(月)19:30~21:05	
会場	オンライン	
参加者	しまこト OBOG(10名)	
協力	江津市地域振興課(1名:録画)	
事務局	(株)シーズ総合政策研究所(3名)	
概要	有福温泉のフィールドトライアル、及び Go>つくる大学のオンライントライアルに向けて、地域や団体を紹介し、各自との関りの可能性をディスカッションし、トライアルへの参加を呼び掛けた。	

【プログラム】

開始時間	プログラム	メイン
19:30	オープニング	参加者、事務局
19:40	事業説明・江津市の説明・プロジェクト説明	事務局
20:10	意見交換	参加者、事務局
20:30	休憩	
20:35	各自の棚卸と共有	参加者、事務局
21:00	オンラインツアー、トライアルの案内	事務局

21:05	終了	
-------	----	--

5.8 活動内容⑥ 有福温泉オンラインフィールドトライアル

名称	有福温泉オンラインフィールドトライアル
日時	2020年12月26日(土)13:00～
会場	オンライン
参加者	しまこト OBOG(6名)
協力	江津市地域振興課(1名)、有福温泉(2名)、有福温泉外部関係者(2名)
事務局	(株)シーズ総合政策研究所(3名)
概要	有福温泉地域のひと・コトやエリアリノベーションプロジェクトの概要を知り、同プロジェクトにかかわるためのかかわりシロを見出していくための意見交換とワークを行い、それぞれのステイメントを発表した。

【プログラム】

開始時間	プログラム	メイン
13:00	オリエンテーション	事務局
13:30	有福温泉と江津市の取り組みを知る	中川哉氏(江津市地域振興課)
13:50	有福温泉の魅力と課題、そしてかかわりシロ1	佐々木文氏(吉田屋若女将)
14:05	有福温泉の魅力と課題、そしてかかわりシロ2	小堺光倫氏(山陰ギフト代表) 葉柴聖氏((一社)イワミノチカラ)
14:35	休憩	
14:45	有福温泉 まち歩きツアー ～温泉街とエリアリノベーションの紹介	中川哉氏、盆子原温氏(有福温泉連合自治会会長)
15:40	休憩	
15:50	かかわりしろを考える	参加者
16:50	終了	

5.9 活動内容⑦ Go>つくる大学オンライントライアル(ワークショップ)(第1回)

名称	Go>つくる大学オンライントライアル(第1回)「まちをつかいこなそう学」
日時	2021年1月12日(火)19:30～21:30
会場	オンライン
参加者	しまこト OBOG(9名)
協力	(講師)三浦大紀氏
事務局	(株)シーズ総合政策研究所(3名)
概要	Go>つくる大学を知り、同大学の講座づくりに向けての考え方や大切にしておくべきことを学習し、それぞれの視点を整理し、講座づくりのためのワークを行った。

【プログラム】

開始時間	プログラム	メイン
19:30	チェックイン	事務局
19:40	講座の概要説明	事務局
19:45	三浦学長レクチャー	三浦大紀氏(Go>つくる大学 校長)
20:30	休憩	
20:40	ワークシート作成	参加者
21:10	ワークシートの共有、講評	三浦大紀氏、参加者
21:30	終了	

5.10 活動内容⑧ Go>つくる大学オンライントライアル（ワークショップ）（第2回）

名称	Go>つくる大学オンライントライアル(第2回)「講座を支える側のかかわりシロを考えてみよう」
日時	2021年1月25日(月)19:30~21:30
会場	オンライン
参加者	しまこト OBOG(8名)
協力	NPO てごねっと石見(4名)
事務局	(株)シーズ総合政策研究所(3名)
概要	第2回目では、事務局の視点をNPO てごねっと石見スタッフから学習し、各自の講座企画をさらに整理し、それをお互いにブラッシュアップした。

【プログラム】

開始時間	プログラム	メイン
19:30	オリエンテーション	事務局
19:40	Go>つくる大学事務局の講義をつくるためのレクチャー	NPO てごねっと石見
19:50	頭の整理シート作成	参加者
20:00	みんなでブラッシュアップ Round1	NPO てごねっと石見、参加者
20:30	休憩	
20:35	みんなでブラッシュアップ Round2	NPO てごねっと石見、参加者
21:05	ワーク結果の共有	参加者
21:30	終了	

5.11 活動内容⑨ Go>つくる大学オンライントライアル（ワークショップ）（第3回）

名称	Go>つくる大学オンライントライアル(第3回)「マイ講義と江津のこれからのかかわりを発表しよう」
日時	2021年2月1日(月)19:30~21:30
会場	オンライン
参加者	しまこト OBOG(8名) 【ゲスト参加】NPO てごねっと石見(3名)、有福温泉トライアル出演者(3名)
協力	(講師)三浦大紀氏(Go>つくる大学 校長)
事務局	(株)シーズ総合政策研究所
概要	第1回目、第2回目のトライアルを受けて、参加者各自が「マイ講義」として実際の講義に仕上げていくためのワークを行った。講師からのコメントを受け、今後につなげていくとともに、トライアル参加に協力した地元関係者を招き、発表を視聴していただいた。

【プログラム】

開始時間	プログラム	メイン
19:30	オリエンテーション	事務局
19:40	マイ講義シート作成&発表準備	参加者
20:00	休憩	
20:10	マイ講義発表	参加者、三浦大紀氏
21:20	ゲストからの講評	NPO てごねっと石見、有福温泉関係者
21:30	終了	

5.12 活動内容⑩ 調査委員会の開催

名称	第1回調査委員会
日時	2020年10月12日(月)10:00~12:00
会場	オンライン
参加者	委員長:若林宗男氏(事業構想大学 客員教授) 委員:正能茉優氏(株式会社ハピキラ 代表取締役)、指出一正氏(「ソトコト」編集長)、田中輝美氏(ローカルジャーナリスト)、松本敦則氏(法政大学地域研究センター 教授)
協力	オブザーバー:浜田市定住関係人口推進課(川合課長、平野氏、小川氏) オブザーバー:江津市地域振興課(中川課長)
事務局	(株)sotokoto online(嶋村氏) (株)シーズ総合政策研究所(藤原、奥崎、高木)
概要	事業内容及び対象地域について、情報を共有した。関係人口に求めることや関係人口層へのアプローチ、地域振興へのかかわり方など、それぞれ委員の専門的立場から、知見を述べていただいた。

名称	第2回調査委員会
日時	2021年2月16日(火)13:30~16:00
会場	オンライン
参加者	委員長:若林宗男氏(事業構想大学 客員教授) 委員:正能茉優氏(株式会社ハピキラ 代表取締役)、指出一正氏(「ソトコト」編集長)、田中輝美氏(ローカルジャーナリスト)、松本敦則氏(法政大学地域研究センター 教授)
協力	現地メンター:三浦大紀氏(江津市事業 Go>つくる大学 校長) オブザーバー:浜田市定住関係人口推進課(川合課長、平野氏、小川氏)
事務局	(株)sotokoto online(嶋村氏) (株)シーズ総合政策研究所(藤原、奥崎、高木)
概要	今年度実施した事業を報告し、委員や現地メンター、オブザーバーを交えて意見交換を行った。また、今年度の成果を踏まえ、今後の事業展開や自立化・自走の検討、及び横展開等について、各委員より提言が述べられた。

6 モデル事業としての成果検証

6.1 事業成果（目標達成状況）

	目標	達成状況
1	《浜田市》実施地域に対して、関係人口の参画により、外からの視点で地域課題や解決方策、地域の魅力や課題の発見・提言が得られること 【指標・KPI】フィールドトライアル参加者による提案件数が参加者と同数	○ フィールドトライアルにおいて、法政大学より学生、卒業生及び教授を含めて21名が参加し、21件の提案が提出された。
2	《浜田市》事業実施により、都市側の視点からみた地域のすがたを再確認し、地元住民が暮らしや仕事への愛着や誇りを醸成すること 【指標・KPI】協働活動で活動が活発化したと考える関係者の満足度が関係者の80%以上	○ 地元関係者アンケートにおいて、「今回の取り組みが、自身の地域活動への意欲が高まった」という回答が90%。
3	《浜田市》地域への課題解決にかかる活動についての「ジブングト意識」が高まり、関係人口との協働への意欲が高まること 【指標・KPI】関係人口との協働活動を継続したいと考える関係者の割合が関係者の80%以上 【指標・KPI】次年度に継続して展開する取り組みの件数が2件以上	○ 地元関係者アンケートにおいて、「今後も継続した協働活動を希望する」という回答が90%。 ○ 今福公民館、国府公民館、美川公民館での交流を継続して行う。また、市では、この3館をモデルとして、他の公民館への展開も検討している。
4	《江津市》事業によりGo>つくる大学の魅力化が図られること 【指標・KPI】事業により大学の魅力が向上したと考える参加者・関係者の割合が80%以上	○ Go>つくる大学運営者へのアンケートより、受講生の講座発表の満足度が100%。（受講生作成による講義プランへの満足度を含む回答。） ○ 都市部参加者アンケートより、講座への満足度が100%。
5	《江津市》多様な形態でGo>つくる大学事務局に参画する人材が確保されること 【指標・KPI】事業におけるマッチング件数（関係人口数）が5名以上 【指標・KPI】求める運営人材が充足したと考える関係者の割合が80%以上	○ 事業におけるマッチング件数は9件。 ○ 「地外からのサポート人材づくりに役立つ」という回答が100%。
6	《江津市》Go>つくる大学の受講者増加が図られ、全国からの参加者も確保されること 【指標・KPI】都市部からの講座参加者数	○ 11/2にイベント開催。約50名参加。
7	《江津市》Go>つくる大学の認知度が高まること	○ 11/2にイベント開催。約50名参

	【指標・KPI】都市部での交流トークイベントへの参加者数:30名以上	加。
8	《江津市》有福温泉の再生に関わる人材ネットワークが形成されること 【指標・KPI】事業におけるマッチング件数(関係人口数)が5名以上	○ トライアル後の継続的関わりを希望する参加者は6名。
9	《江津市》まちづくり会社への参加を希望する人材が確保されること 【指標・KPI】事業後、まちづくり会社への参加を希望する参加者の割合が80%以上	○ トライアル後、有福地域のまちづくりへの関わりを希望する参加者の割合は85.7%。

6.2 事業成果（関係人口の地域とのかかわり方）

①かかわりシロチャンネル

- 関係人口層へ向けた「かかわりシロチャンネル」発信により、指出氏と三浦氏とのトークによって、どこに面白い部分があるかを示し、地域に対するかかわり方を提示することができた。
- 本事業におけるトライアルでは、関係人口を一般に募るのではなく、クローズドのなかで関わりを深まりをつくる取り組みを実施した。そうした中、「かかわりシロチャンネル」においては、より広く知っていただくという、認知の広がりをつくる結果となった。

②スタートアップ型トライアル

- オンラインに変更したことにより、想定人数より多くの関係人口を得ることができた。
- オンライン形式にあって、「臨場感のある体験ができ、地域を盛り上げようと頑張っている人たちの生の声をきくことができた」「〇〇さんの実況が良かった」「リアル感を楽しめた」といった感想が寄せられ、地域のリアルな情報を受け取っていただくことができた。
- オンライントライアルを終え、「ぜひ浜田へ伺いたい」「引き続き交流したい」「これからも浜田を応援したい」と、ほとんどの参加者から、今後のつながりに期待が寄せられた。今後、オンラインでのかかわり、そしてオフラインへの動機づけと、関わり方の多様性を参加者自身が見出す結果となった。

③ブラッシュアップ型トライアル

- オンラインに変更したことにより、想定人数より多くの関係人口を得ることができた。
- 「Go>つくる大学」の参加者は、実際に講座をつくるトライアルにおいて地域の課題や可能性を知り・考え・プランをつくるというプロセスを積極的に体験し、今後、運営側として「是非参加したい」「具体的プロセスをつかって実践したい」と、地域側にとっては人材を得る結果となった。
- 「有福温泉エリアリノベーション」では、地域の現状を真摯に受け止めつつ、「関係人口として」の自覚を持った参加者それぞれが、関わり方を具体的に考え、ディスカッションし、発表するトライアルとなった。ほとんどの参加者が、今後のかかわりを希望する結果となった。

6.3 事業成果（その他）

- ・ 「しまこアカデミー」のような、関係人口としてのプランをまとめることのできる人を対象としていたことにより、提示されたアプローチの仕方が早い段階で明確になり、具体性のあるプランが出てきた。
- ・ 「ブラッシュアップ」=受入側も、関係人口側も、経験や実績があった上でトライアルを行ったことによって、成果への到達が早く、より具体的なアウトプットとして成果が表れることが実証された。
- ・ 地元の人が案内役を担ったことで、地域をメッセンジャーとして、地域の情報に精通している時間軸や要所をとらえてレポートし、参加者の理解を深めることに寄与した。また、当事者の実感をもってレポートしたことも有効であった。
- ・ オンラインで行ったことによって、プログラムコンテンツとして発信し、リポーター（伝え手）として、外部の人へ分かりやすい表現スキルを発揮し、自らの新たなスキルに気づき、地域内でも可視化することができた。
- ・ 浜田市オンライントライアル参加者の感想として、ゼミで現地調査に入った際に、地域側の人のお話の流れで進むのことが多くあり、自らの研究テーマと異なることが少なくなった。しかし、今回は、自らの研究テーマを明らかにした上でのトライアルであり、これに即した全体のプログラム構成、これを受けての現地からの情報提供や意見交換であったため、限られた時間の中で、非常に有意義な現地調査を実施することができた。コーディネートを通じたコンテンツ提供であったことにより、地域の理解が深まった。

6.4 本年度の課題と対応

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大により、現地でのフィールドトライアルが不可能になった。これに対し、オンラインによって、トライアルを実施した。
- ・ その際、単に地域をめぐるだけではなく、事前収録を行い、そこにマップや背景にある情報を盛り込み、その場の対話だけでは補完しきれない情報を編集した動画を制作し、トライアルプログラムの中に組み込む構成とした。これにより、限られた時間とオンライン環境のなかであっても、地域からのメッセージを的確に伝えることが可能になった。
- ・ 事業体制構築段階には想定していなかった事業推進体制を、オンラインによるトライアルとしたことによって、現地からの中継等におけるスタッフ体制をより効果的で円滑な運営ができるよう、チーム編成を再構築し、実施した。

6.5 今後の事業のあり方

(1) スタートアップ型（浜田市）

【関係人口との協働を活かしたつながり環境の充実と浜田プライドの醸成】

順調にスタートした状況を、地域の活力を高めるためにフォローアップしていく。着実に、シビックプライドの醸成やこれに魅力を感じる関係人口との協働機会をさらに拡充していく。

- ①（スタートアップからのステップアップフォロー）受け皿側となる地域住民（公民館等関係者）の意識が一定程度、醸成された。これを今後、地域内の住民へ広げ、さらに機運を盛り上げていく。今回の事業を、今後の地域内の活動に取り込んでいくこととする。
 - ・ 公民館単位での取り組みの深堀り。プレイヤーと協働し、市内の若者を中心とした地域活動
 - ・ 地域の魅力を発見、デザインしていく市内横断的な人材ネットワーク（地域の編集人材）の育成

② (スタートアップ地域の拡大) 今回の3つの公民館以外に、市内の他の公民館への展開

- ・ 公民館を拠点とした地域課題発見、解決へのプロセスづくりの今年度実施したフォーマットを活かし、市内の他の地区へ展開する。

(2) ブラッシュアップ型(江津市)

今年度、関係人口層からの提案を実践するためのプラットフォームづくりや、地域プレイヤーとの連携コーディネートなど、実現に向けた検討と実践に取り組んでいく。

① Go>つくる大学

【Go>つくる大学をプラットフォームとする関係人口の循環モデルづくり】

- ・ 今年度の参加者(関係人口層)が作成した講義プランを、実現に向けて支援する。
- ・ 地域外から遠隔で講座運営に関わり、Go>つくる大学運営事務局の負担軽減や大学の魅力向上につながるためのオンラインを活用した仕組みや手法等についての検討、関係人口が参画できる運営プラットフォームの検討と実践。
- ・ 上記実践により、全国どこからでも関心層が受講できるコンテンツ制作を進め、認知度の向上を図っていく。

② 有福温泉エリアリノベーション

【関係人口と地域プレイヤーとの協働による温泉街活用プロジェクト】

- ・ 今年度の参加者(関係人口層)が作成した協働の提案について、地域プレイヤーとの連携をコーディネートし、実現を図る。

例:(空き店舗を活用)温泉街再生のための「本のある空間づくり」

例:(良質な泉源と里山環境を活用)温泉・森林を活用した愛犬のセラピー

7 自立化・自走化の検討

7.1 デジタル関係人口事業支援としての自立化・自走化

- 従来の地方から見た関係人口は、つながり方を維持・継続していくことに対するコストがかかりすぎていた。移動時間や移動費用の面で、都市側の人にとっての負担が大きすぎた。自走化・自立化するにあたって、オンラインのツールを、オリジナルの関係人口のためのツール、プラットフォームとして整えることの重要性が明らかになった。
- 今回、オンラインというツールを活用することによって、地域と都市側のつながりをつくり、深めることが可能であることが明らかになった。これをより一層進めていくことが関係人口の創出・拡大にとって重要である。
- 「かかわりシロチャンネル」でプレイヤーを取り上げて光をあてたことによって、地域のプレイヤーがまちづくりにとって重要であり、豊富に人材があることが可視化された。このことを、地域側、都市側とで共有できた。
- 「かかわりシロチャンネル」によって、地域にはプレイヤーが豊富にあるとともに、誰でも関係人口になりうるという認識が広がった。
- 従来は直接の訪問や対面への意識が大きかったが、オンラインにより、時間と距離の障壁が大幅に軽減され、都市側の関係人口層にとってかかわりやすい環境が整っており、関係づくりにおいて有効であることが実証された。
- 中間支援者(運営者)にとっても、デジタルツールや環境が普及してきたことによって時間と経費が軽減された。今後、これらを活用した関係人口にかかるコンテンツとしての水準を上げるなかで、有料講座としての運営を行うことも可能になると考える。

8 他地域への横展開の可能性の検討

8.1 デジタル関係人口の横展開

- 関係人口づくりにおいて、①地域への関心を高める魅力の編集などの入り口づくりのフェーズ、②交流を深め、地域への理解を深めるフェーズ、③自らを内省し、つながりのアイデアを組み立てるフェーズ、④具体的なつながりの方を地域の人と共有するフェーズがある。
- このフェーズを、デジタルツールや環境を活かしてフォーマット化し、これをつながりづくりのスキルや経験を有する人材・チームが、仕組み(プラットフォーム)として機能させる。
- そのうえで、この仕組み(プラットフォーム)に各地域固有の価値・ひとの魅力を編集することで、対象地域において効果的で取り組みやすい横展開が可能になると考える。